

校名：大分大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒870-0819大分県大分市王子新町1番1号 電話番号：097-543-8317

記載日： H28年 5月 19日 記載者：小西利治 記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

- ・児童生徒の個々の自立に向け、教員が協同、協働して働き、学びあいの意識が強い学校。
- ・児童生徒個々の能力や適正を大切に、実態に応じた指導の工夫が徹底している学校。
- ・昨年度より、『連携のある学校』『貢献のある学校』を重点課題に掲げ、県立図書館など地域資源を積極的に活用した教育を展開するとともに、本校教員やOB教員、大学関係者などを講師にした「附特セミナー」を開催し、地域の小中学校等の先生方を招いての研修会を開き、特別支援教育の発展に寄与するよう努めている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 過去3年間の卒業に対して、進路先訪問又は家庭への電話連絡を行っている。
 - ・同窓会を毎年1回開催している。
 - ・同窓会の出欠を聞く際、当日参加できない卒業生は近況を書いてもらっている。
 - ・進路指導主事が、各施設の行事になるべく参加するようにし、職員に卒業生の状況を聞くようにしている。
 - ② 高等部所属の進路指導主事を責任者として、毎年の卒業生の住所・電話・進路先・保護者名などの情報をまとめた卒業生名簿を作成している（現在300名程の卒業生の情報を把握している）
 - ③ 会社に就職して勤続20年以上勤めテレビで紹介された方もいて、離職せず毎日勤務している。
 - ・351名の卒業生がおり、そのうち約45名程度の方が一般企業で働いている。
- *「青年学級」という卒業生でつくる任意団体があり、本校の勤務経験者や進路指導主事がお世話役となり、年4、5回、レクリエーション活動や宿泊、食事会などを楽しんでいる。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査について
 - ・追跡調査等は特に行っていない。
- ② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか
 - ・異動に関する新聞発表、大分県教職員録での把握。
 - ・本校勤務経験者で作っている任意団体がある程度把握していると思われる。
- ③ 状況を具体的に
 - ◇大分県教育庁特別支援教育課長（旧室長）は20年間程、現職を含め2名を除き、ほとんど本校勤務経験者が務めている。
 - 〈現職〉・大分県教育庁特別支援教育課長、同指導主事2名
 - ・大分県教育センター特別支援教育部長、同指導主事1名
 - ・県立特別支援学校校長1名 ・県立特別支援学校教頭3名

- ・その他、数名が市立小学校等の管理職を努めている
- ・県立特別支援学校では、学部主事や研究主任、教務主任担当者は多数

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

◇〔研究面〕

○授業構想チェックシートの作成と関係機関との連携

- ・本校では研究テーマ「活動に意欲的に取り組むための授業づくり」をもとに、効果的な指導方法を探る研究に取り組んでいる。その生産物として、「授業構想チェックシート」を作成している。この「授業構想チェックシート」は、授業構想の段階で、教材、題材計画、学習環境、学習活動、教師の働きかけごとに、児童生徒が意欲的に活動に取り組むために必要な視点をまとめたものである。この研究、生産物に対して、大分大学の教授、大分県教育委員会の指導主事に研究会などで指導助言をもらう取り組みを行い、よりよい研究となるよう改善を行っている。

○授業構想チェックシートを地域の学校へ広める取り組み

- ・「授業構想チェックシート」は今年度7月に行われる公開研究協議会に参観される、地域の小中学校、特別支援学校の先生方は配布し、意見をいただき、より活用しやすいものへと改善する。
- ・また、8月に本校主催の研修会（附特セミナー）を開催し、参加された地域の先生方に「授業構想チェックシート」の活用方法について説明するとともに、持ち帰っていただき、実際に使って授業を実践してもらうようにする。その後、実際に使ってみた結果から、活用の仕方に関する意見をいただき、改善に取り組むようにして、地域の学校へ本校で作成した生産物を広めていく計画を考えている。

◇重点課題〔連携のある学校〕の取組みとして、地域資源（地域住民を含む）を活用した実践〈高等部の取組〉

【喫茶サービス】

○通常は作業学習として週1回（2時間）の授業を行っている

〈昨年度の実績〉

7月10日	9:30~11:00	参観者、本校保護者対象の開店
7月14日	13:00~15:00	特別支援学校技能発表会（企業の方対象）
7月15日	9:00~10:30	本校保護者対象の開店
11月13日	11:00~13:00	地域の方、本校保護者対象の開店
3月3日	13:15~15:00	地域の方対象の開店（地域の公民館）

〈今年の予定〉

6月1日		本校保護者対象の開店
7月1日		参観者、本校保護者対象の開店
7月12日		特別支援学校技能発表会（企業の方対象）
11月4日		地域の方、本校保護者対象の開店
1月		地域の方対象の開店
2月		地域の方対象の開店
3月		地域の方対象の開店（地域の公民館）

【野菜販売】

○通常は作業学習で週1回（2時間）の農作業を行っている

〈昨年度の実績〉（県立図書館での販売）

12月17日 13:30～14:30 地域の方対象のじゃがいも・さつまいも販売

*中学部も図書館での農作業販売活動を1回実施

〈今年の予定〉

6月 校外でのじゃがいも販売（県立図書館での販売）

12月 校外でのじゃがいも・さつまいも販売(場所は未定)

【出張メンテナンス】

〈昨年度の実績〉

2月9日 9:15～10:15 西部公民館

2月12日 13:30～14:30 西部公民館

2月17日 13:30～14:30 西部公民館

〈今年の予定〉

1月2回 西部公民館

2月3回 西部公民館を予定しているが、他の施設も検討中

◇重点課題〔貢献のある学校〕の取組みとして、地域の小中学校の先生方を招いた研修会の実施

【附特セミナー】*本校の教員やOB教員、大分大学の先生等を講師にしたセミナー

〈昨年度の実績〉

第1回・・12月8日《講師：本校校長》

「どの子にもわかるユニバーサルデザインの学校生活・授業作り」

*地域の幼、小、中学校の教員の参加（21名）

第2回・・1月26日《講師：本校OB、大分県教育庁合理的配慮アドバイザー》

「来年度、4月から法的義務になる合理的配慮とは」

*地域の幼、小、中学校の教員の参加（34名）

第3回・・2月23日《講師：本校OB、大分県教育センター特別支援教育部長》

「個別の指導計画作成のこつ」

*地域の幼、小、中学校の教員の参加（26名）

〈本年度の計画：全5回〉

第1回・・5月17日《講師：本校OB、現、本校非常勤講師》

「子どもの思考を大切にしたい教材目標の考え方について」

第2回・・6月13日《講師：大分大学教育学部附属教育実践センター准教授》

「事例から考える発達障害のある子どもに寄り添う支援」

第3回・・8月2日《講師：本校研究主任》

「みなさんも使ってみませんか？“授業構想チェックシート”の使い方講座」

第4回…10月予定《講師：本校研究主任》

「使ってみました！“授業構想チェックシート”を使った授業実践交流会」

第5回…1月24日《講師：大分大学教育学部准教授》

「特別支援教育の教育課程」

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○地域の学校、先生方が困ったときに頼ることのできる存在である。

- 他の特別支援学校が教育課程（指導の形態の考え方）を編成するときに、本校の教育課程を参考にしている。
- 各学校の先生が実践を行うとき、本校のこれまでの研究で積み上げてきた生産物を活用している。例えば、指導内容を設定するとき本校の生産物「指導内容段階表」、指導案を作成するときや日々の実践で「指導案の書式」、「実践事例集」、「過去の指導案集」、本校教員が作成した「教材、教具」など。

○九州の特別支援教育研究協議会（大分大会）等では、県下の特別支援学校の指導案の添削や助言、会場校となつての授業公開等、会の主要業務である研究面では、本校が主体となつて運営するなど、県下特別支援教育の研究実践の中枢を担っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

- 県下の特別支援学校や市町村立学校の管理職員、県教育委員会事務局の幹部職員や指導主事、教育センター指導主事等の多くは、本校で研究や教育実践を重ねた先生方が非常に多く、附属学校は、大分県の教育を牽引する人材を育てる面で重要な学校であるといえる。
- 特別支援学校は、地域の特別支援教育のセンター的役割を担うこととなっているが、県立特別支援学校の教育課程や個別の指導計画、指導案の記述様式、進路指導関係書類などは、本校のものを参考に作成している学校も多く（毎年いずれかの学校から問い合わせがある）、センター的役割の中のさらにセンター的機能を果たしており、県下でなくてはならない存在である。
また、他県でも同様のケースが考えられることから、附属学校はこの国や地域の教育に大変重要な機関であると考えらる。

以下、このページいっぱいまで、ご自由にお使いください。